

復活節第2主日の説教

金 大烈 神父 2009年4月19日(日)

《神のいつくしみの主日》

御復活おめでとうございます。御復活を過ぎて、その前と後で変わったことがありますか？(・・・) 復活されたんでしょう？皆さまは。ですから復活した何かしるしがあらわれたでしょう。今までならこういう時必ず腹が立ったのに腹が立たなくなったり、そういうしるしが表れましたか？(・・・) そんなに簡単に変わりませんよね。

今日の福音(ヨハネ20・19-31)で復活されたイエス様が弟子たちに現れて三回同じことをおっしゃっています。「あなた方に平和があるように」復活されたイエス様が初めて人々に会った時、言われたのは「あなた方に平和があるように」。そしたら「復活」と「平和」は断ち切れない関係かもしれません。どういう関係か、それを確かめるために考えてみましょう。

皆様が知っている「平和」という言葉の意味は何ですか？その意味は解っていても一口で言えないのかもしれないかもしれません。それでは平和の意味をもっとよく解るために、平和を壊すものは何でしょうか？簡単に言いましょう。恐れ、不安、飢えること、寝られないこと・・・そういうことによって不安になり私たちの心の中に平和が見えないことですね。そしたらこのような心配、痛み、恐れ、飢えることを無くしたら私たちは平安を保つことができるのでしょうか？たぶんそうでしょう。そう思います。でも私たちの人生というものに心配、不安、恐れ、痛み、そういうものを無くすことができると思われませんか？おそらく私たちが再び天国で会う時、その時にならなければ絶対できないことだと思いません。ということは、イエス様のおっしゃる「平和」は私たちが考える「平和」と違うところがあるということの意味します。私たちはしょうがなくていろいろ人間的なこまごました感情の中で痛んだり、笑ったり、恐れたり、希望したりしながら生きています。そしたらどうしたらいいでしょう？哲学的にいいますと、不安の働きです。

イエス様のおっしゃった「平和」というものは人間的な感情を乗り越える何かの力でしょう。それは何でしょう？イエス様が「あなたがたに平和があるように」とおっしゃったその意味は「人間が一番怖がる、人間が迎える一番絶望的な出来事、その死を乗り越えて私は復活したから、死が終わりではないともっと強く希望をもって生きなさい。」の意味ではないでしょうか。イエス様のおっしゃった「平和」は狭い目で感情に縛られて目の前だけ見るそういう生き方ではなくて、もっと広い目で生と死を共に見ることができる。それをイエス様は望んでいらっしやると思います。完璧な「平和」イエス様のおっしゃった「平和」を味わうためにはこの世の感覚、社会が教えてくれた価値観の感覚では絶対味わえません。その「平和」とは、信仰の目で広い目で始まりと終わりを一緒に見ながら、それを乗り越えるすべての心があるとき可能になります。

皆様いろいろ心配があるでしょう。これからもあると思います。絶対なくならない。しかしそれを恵みとして受け入れられるのか、自分の十字架として妨げるものとしてみるかは私たちの心の目の把握です。このように考えてみましょう。「美しく死ぬためには美しく生きるしかない」この平凡な真理を胸に刻みながら、強い願いとともに信仰の生活をしましょう。

ありがとうございました